

WCS用イネの品種特性（病害への抵抗性）

1 はじめに

WCS用イネ栽培は、生産コスト低減のため、防除を最小限とする必要があります。品種の持つ病害虫抵抗性を理解し、栽培する地域で問題となっている病害に応じて品種を選択しましょう。防除を行う際は、WCS用イネに使用可能な農薬に制限がありますので、留意ください。また、出穂期以降の防除は原則として行わないようにしましょう。

2 病害に対する品種特性一覧

品種名	早晩性 ²⁾	抵抗性			
		いもち病 ¹⁾		白葉枯病 ²⁾	縞葉枯病 ²⁾
		真性抵抗性 (抵抗性遺伝子)	葉いもちへの ほ場抵抗性		
たちすずか	晩生	ある	弱	強	罹病性
たちあやか	中生	ある	不明	中	罹病性
つきあやか	中生	ある	不明	中	抵抗性
つきすずか	晩生	ある	不明	強	抵抗性
つきことか	極晩生	ある	弱	やや強	抵抗性

1) 稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル第7版<令和2年度版>(2020)(一社)日本草地畜産種子協会

2) 令和6年播種用「飼料用イネの栽培と品種特性」(2023)(一社)日本草地畜産種子協会

3 主要病害虫と品種

① いもち病

品種：「たちすずか」「たちあやか」「つきあやか」「つきすずか」「つきことか」

これらの品種は抵抗性遺伝子を持つと推定されるため、栽培開始当初は発病しないが、ほ場抵抗性は弱い、もしくは不明であるため、抵抗性遺伝子打破系統の出現・蔓延により甚大な被害となることがあります。基本防除を励行し、抵抗性遺伝子打破系統の出現を抑制するとともに、発病が見られた際は、速やかに普及指導機関にご相談ください。

② 縞葉枯病

品種：「たちすずか」「たちあやか」

抵抗性が無いので、常発地帯では作付を行わないでください。